

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	商工業振興に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	街路灯(水銀灯)のLED化を推進することで、固定費を抑え、商店会の活性化に必要な事業費を増加させる。事業費の増加は、イベント等の拡充となり、地域活性化につなげる。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	街路灯のLED化について、街路灯を有している10商店会のうち、5商店会が「検討中」、1商店会が「予定なし」としている。今後、平成31年度予算編成時期前を目途に、「検討中」としている5商店会に対し、LED化に伴う補助制度及びメリット、事例等の情報提供等を行う。
②①に基づく取組み結果	街路灯のLED化を未実施の商店会に対して改善依頼を行ったが、LED化の回答は無かった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、ドリームカード会、市内14商工業振興団体	意図(対象をどうするのか)	補助金の交付を通じて商店街等の振興を図る。
②事務事業の概要	市内に存在する企業の大半を占める中小企業や経済活動を行う団体に対して、補助金の交付やイベントの共同実施などで支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全庁的に補助金の見直しが行われた昭和63年に、商工会等の活性化及び育成のため創設された。ここ数年では、大型店や全国展開チェーンの出店や、ネット通販の台頭により、既存の商店街は厳しい立場に置かれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	商工会及び商店街の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。						
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠	
	i	補助金交付額	28,229	28,874	21,911	千円	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	31,708	23,037	金額(千円)	内容	23,057		
国支出金(千円)			21,911	商工業振興補助金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	31,708	23,037			23,057		

IV 評価・検討

①課題	電気料金の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設(街路灯)の維持管理に負荷がかかるなど、固定費の支払い増加が、商店会運営の圧迫に繋がっている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	補助金交付基準の精査・検証を行うことで、商工業振興団体の活動を拡充させ、現状に則した支援を可能にするため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H28からの繰越	
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成30年度への繰越額(単位:千円)				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	空き店舗活用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	より多くの方に活用してもらうよう周知を強化するとともに、利用者への事業継続支援を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	事業者間の連携を図るため、空き店舗活用事業者による交流会を開催する。
②①に基づく取組み結果	市内公共施設13箇所、市内金融機関6箇所、市内商工業振興団体14箇所、空き店舗活用事業所10箇所に周知した。また、空き店舗活用事業所3箇所を対象に、千葉県よろず支援拠点による事業相談を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に出店しようとする者	意図(対象をどうするのか)	店舗数の増加による地域の活性化
②事務事業の概要	賑わいの創出を図るため、商店街の空き店舗を活用し、出店する人に対し、店舗改装費等の総額2分の1(上限100万円)を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内商店会については、売上減少や後継者問題等により店舗の閉店が増加し、シャッター街化している商店会が少なくない。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	5件の補助金交付決定をした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付件数	7	5	5	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳			平成30年度予算	
事業費(千円)	5,000	4,512	金額(千円)	内容		5,000	
国支出金(千円)			4,512	空き店舗活用補助			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	5,000	4,512				5,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	依然として、市内には多くの空き店舗があり、空き店舗の解消に向け取り組んでいく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	商店街の空き店舗を活用し、集客に役立つ施設及び店舗の開店など、賑わいの創出を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	補助金	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金を支出した。	5,000	5,000	当初	5,000	5,000	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			5,000
平成30年度への繰越額(単位:千円)							0

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	観光ビジョン推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	4	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、観光ビジョンに掲げた施策を推進するとともに、新たに、地方創生推進交付金を活用した「インバウンドモニターツアー」をワカタネ市長訪問団の来訪と併せ実施するなど、事業の拡大、内容の拡充をし、市民の観光意識の醸成を図る。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、観光ビジョンに掲げた施策を推進するとともに、地方創生推進交付金を活用した北海道及び沖縄県でのトップセールスを実施することで、ファイターズを共有資源とする自治体との連携強化、遠隔地での認知度向上を図る。
②①に基づく取り組み結果	地方創生推進交付金を活用した新たな観光振興策として、ワカタネ市長訪問団等を対象とした「インバウンドモニターツアー」を開催した。また、タウンミーティングや高校生フォトコンテスト等を開催し、市民の観光意識の醸成を促した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民及び市内事業者	意図(対象をどうするのか)	事業を通して市民・市内事業者の郷土愛を育て、市外住民へのおもてなしの心を醸成する。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市観光ビジョンに沿った観光振興策により、まちの活性化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民が自立的に活動を広めていくことが理想的である。こういった市民の活動に対する支援施策の検討なども必要と考えられる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	ファイターズを共有資源とする北海道(紋別市・士別市)や沖縄県国頭村にて、市長によるトップセールスを実施した。また、本市をはじめ県内の観光資源の魅力を再発見する、高校生フォトコンテストを開催した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	算定根拠
	i 高校生フォトコンテスト応募作品数	123	130	204	作品 業務取得
	ii 北海道、沖縄県での観光イベント実施回数	1	2	2	回 業務取得
iii					
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算
事業費(千円)	11,930	5,417	金額(千円) 内容		6,102
国支出金(千円)	10,717	2,493	324 北海道観光イベントブース借上料		2,625
県支出金(千円)			2,364 商工業振興補助金		
市債その他(千円)					
一般財源(千円)	1,213	2,924			3,477

IV 評価・検討

①課題	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民自らが自発的に市の魅力を広めていく体制を整えていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	1低い	
③上記評価の理由	観光ビジョンの実現に向けて、より具体的に施策を推進していく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	・インバウンドや観光ガイドマップ作成等 ・札幌・沖縄観光イベント等	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	インバウンド、北海道及び沖縄県でのトップセールス等	5,973	5,973	当初	5,973	5,417	H28からの繰越	
③達成状況	未完了			補正			現年分	5,417
④未完了・非着手の理由	観光ガイドマップ未作成(平成30年度作成)	平成30年度への繰越額(単位:千円) 0						